健康と光線

発行所
〒153—0063
東京都目黒区目黒
4−6−18
サナモア光線協会

年４回発行
会費年500円
電話 東京（03）
3793−5281
3712−5322

サナモア光線協会の責務
—新規事業の推進—

サナモア光線協会　サナモア中央診療所
医学博士　宇都宮　光明

西暦二〇〇〇年を迎え

父が創業した㈱東京光線療法研究所を引き継いでから〝創業は易く守成は難し〟（事業を受け継ぐことは難しいの意）を座右の銘として西暦二〇〇〇年の新春を迎えました。これも偏にサナモアを信じてご愛顧を賜ったサナモア愛用者のお蔭と衷心より厚くお礼を申し上げます。顧みて父の意思を受けてサナモアの啓蒙、普及活動に身を投じてから、難病に悩んでいた方を含め、我が身をサナモアの自然治癒力を増強する効果に賭けて下さったサナモア体験者から寄せられる喜びの声を聞き、サナモア光線協会の使命はサナモアを末代に残す礎を築くことと決意を新たにしています。

光なければ生命なし

サナモアの原理の太陽の光は、地球45億年の歴史を通して、生命の誕生から進化の過程に大きく関わっています。生命の起源は原始大気や原始海洋に含まれていた無機物が太陽の光エネルギーを吸収して無生物的に有機物に変化したのが始まりと考えられており、化学進化と呼ばれます。この化学進化によって原始海洋中に蓄積した有機物から生命に欠かせない蛋白質や核酸が合成され、海洋中の有機物を栄養源とする嫌気性従属栄養生物の原始生物（細菌類や単細胞の藻類、藍藻類）が誕生し、この原始生物が進化して太陽の光エネルギーを利用して無機物から有機物を合成する光合成生物（独立栄養生物の植物）が栄養源を豊かにして大気中に酸素を供給した結果、酸素を利用して栄養を効率良くエネルギーに転換できる好気性生物（動物）が出現したと考えられています。小見出しの〝光なければ生命なし〟はドイツの格言ですが、太陽の光こそ生命を生み育んだ源なのです。

人知を越えた光の作用

生物の進化の道程で最後に出現したのが人類です。進化論の中で最も知られているダーウィンの自然選択説は、変化する自然環境に適応するように進化した生物のみが生き残り（適者生存）、適応できなかった生物は生存競争に敗れ自然淘汰されるという学説ですが、この過程に最も影響を与えたのが太陽光線と酸素です。

ところが最近のおかしな話は、太陽光線や酸素のように自然になくてはならないものの害を強調して、有り体に言えば売られている商品を使わないと害を防げないと脅すことです。しかしこの話は適者として生存している生物には人知をはるかに越えた害に耐える仕組が組み込まれていることをないがしろにし過ぎています。太陽光線を例に波長の短い紫外線（ＵＶＢ）が皮膚細胞の遺伝子を傷付ける話を採り上げるなら、太陽光線の波長の長い紫外線（ＵＶＡ）と可視線が傷付いた遺伝子を修復する光回復の仕組みが組み込まれています。

サナモア光線協会の新規事業

サナモア光線協会は太陽の光の恵みのすべてを具現するサナモアが生命力を高めて健康を増進し、現代医学の狭間で苦しんでいる病人を治して不思議でないことを実証し、サナモアがよって立つ基盤の理解を深めて戴くための新規事業を推進します。

実際、これまでにもサナモアによる多くの治療体験を見聞きし、また私自身の治療経験を通して、現代医学では得難い効果、換言すれば薬で症状を抑える対症療法や患部にメスを加える手術療法とは異なる効果を実感してきましたが、これもサナモアが生命に備わった自然治癒力に働き掛けて身体から治癒を促進する自然療法だからです。このサナモアの効果は太陽光線から遠ざかる一方の時代の要請に応えるものと考えていますが、サナモア光線協会はサナモアを一層世に広める新規事業の一環として、西暦二〇〇〇年の夏にはサナモア光線協会附属サナモア光線治療院を目黒に開設します。それまで㈱東京光線療法研究所内に四面に記載したルーフ式マルチアーク療法を行う治療施設を暫定的に設けましたのでご利用下さい。

迎春

平成十二年　元旦
サナモア光線協会
（五日より営業します）

讃光譜

「泉岳寺」赤穂義士墓所
宇都宮義真撮影

光線療法問答

宇都宮　義真

問　サナモア光線療法はどんな療法ですか。

答　そもそも光線療法の始まりは太陽光線の作用を応用した日光療法ですが、サナモアは太陽光線の中にある有益な光線を豊富に出しますので、人工日光療法として、健康増進、病気の治療に応用されます。

問　太陽光線は温かくて明るいだけではないのですか。

答　無論、違います。温かくて明るい光線もありますが、冷たい光線や目に見えない光線も含まれています。例えば紫外線と赤外線は肉眼では全く見えません。

問　太陽灯について説明して下さい。

答　光線を出せば太陽灯と言う人がいますが、紫外線を出す機器、即ち紫外線のみ出す水銀石英灯やサナモアのように紫外線から赤外線まで出すカーボン灯のことです。

問　ところでサナモアとはどう言う意味ですか。

答　私が創案した最新式のカーボン灯の商標として作った造語です。サナトリー（Sanatory）とモア（More）の合成語で健康増進を意味します。

問　サナモアカーボンに種類があるのは何故ですか。

答　サナモアは紫外線、可視線、赤外線を混合した綜合光線を放射しますが、カーボンを取り替えることで光線の混合比率を自由に変えられるようにしたのです。

問　病気に効くのは紫外線と言う話を聞いたことがあるのですが。

答　紫外線に殺菌作用や光化学作用があるのでそう思われたのかも知れませんが、可視線や赤外線にも病気に有効な効果があります。

問　サナモアをかけると温かく感じますが、その効果について教えて下さい。

答　サナモアの温熱作用は主に近赤外線の輻射熱です。そのため身体の表面だけを温める火鉢やストーブと異なり、身体を芯から温める深達性があるため効くのです。

問　サナモアの適応症が多いのはどうしてですか。

答　サナモアは自然治癒力を高めることを目的にした治療法ですから、薬のように適応症が決められていないので、様々な病気に応用され効果が確かめられているからです。

問　それではサナモアは何病気に使っても良いのですか。

答　サナモアを何病気にでも使って見てください。サナモアが出す光線は太陽光線の全ての波長を混合した光線ですから、気持良く当たっていれば自然治癒力を高める色々な作用が働いて効くのです。自然治癒力こそ万病を癒す源なのです。

問　普通は氷で冷やすような場合に光線で温めて害はありませんか。

答　害がないばかりか冷やす以上の効果があります。実際に皮膚に冷刺激を与えると、深部の血行が良くなり身体の中は温まるのです。この目的はサナモアと同じと言うことです。

問　目に害はありませんか。

答　目の病気には目を閉じて照射しますが、特に効果があります。殊に温罨法を施すような目の病気に赤外線は最も効果的に作用します。

問　太陽光線は病人には有害であると言う人がいますが。

答　使い方が正しければ決してそんなことはありません。要は応用の方法の如何です。極度に衰弱している病人に対しては、徐々に身体を光線に慣らすようにして下さい。水や食物でも暴飲暴食すると有害です。逆に猛毒な物質も用い方では薬になります。

問　最後にサナモアと薬物療法の違いについて。

答　サナモアと薬物療法とは観念が根本的に異なります。薬物療法で使われている薬の多くは病気に関係なく痛みや熱や咳や下痢のような症状を一時的になくすことが出来ますが、サナモアは病気が良くなって症状がなくなるからです。

「健康と光線」昭和27年2月5日発行
―光線療法問答―を引用した。

第11回 日本療術学会から
箱根・湯本富士屋ホテル
平成十一年十一月十四、十五日

光線部門

腰痛の治療経験

社団法人　神奈川県療術師会
海渡　一二三

目的

腰痛に関連した五症例に対する光線療法による治療経験について報告する。

症例

【患者1】47歳　女性　会社員

主　訴　腰の激痛。

診　断　ぎっくり腰。

現病歴　朝、起床時に立ち上がろうとした時に腰にギクとくじいたような音を感じ、その瞬間から腰に激痛が走り動くに動けなくなった。やっとの思いで近くの病院に行き、ぎっくり腰と診断されたが、会社に出勤できないため何とか早く痛みを治したいと来所した。

初診時所見　腰痛のため立ち居振舞いがつらく不自由であった。

【患者2】37歳　女性　主婦

主　訴　腰痛、下肢の痛みと腫れ。

診　断　医師を受診せず来所したため診断は受けていない。

現病歴　スイミング教室に通っていたが、泳いでからサウナに入り汗を出し、また泳いでサウナに入りサウナから出た時に腰に激痛が走り、下肢にも痛みを感じ腫れたので驚いてタクシーで来所した。

初診時所見　特に腰を痛がったが膝や足首にも痛みを訴え、痛い、痛いと這いずって動く状態であった。

【患者3】53歳　男性　会社員

主　訴　腰痛。

診　断　椎間板ヘルニア。

現病歴　腰が急に痛くなり自宅で光線療法をしたが痛みが取り切れないため診察を受け、椎間板ヘルニアと診断された。

初診時所見　腰をかがめ歩く姿が痛々しかった。

【患者4】42歳　男性　機械修理工

主　訴　下肢の不全神経麻痺（身体障害者二級）。

診　断　椎間板ヘルニアの術後後遺症。

現病歴　五年前に椎間板ヘルニアの手術を受けたが、術後に下肢の不全神経麻痺を来し、腰から足に力が入らず松葉杖で歩くのがやっとで、痛みの感覚も鈍く、殆ど車椅子の生活を強いられた。この不自由な生活を見た友人に光線療法を勧められ来所した。

初診時所見　上半身には異常はないが、下半身は不自由で触わると冷たく、治療の際にも自力で体位を決めることが出来なかった。

【患者5】63歳　女性　主婦

主　訴　腰背痛。

診　断　変形性腰椎症。

現病歴　病院のレントゲン検査で腰椎がつぶれて骨が変形し、骨と骨との間の椎間の間隔が狭くなっていることを指摘され、年のせいだから治りにくいと告げられた。医師からコルセットを着けて杖を突いて歩くように指示されているが、それでも痛みで歩くのに困難を来していた。

初診時所見　コルセットを着けて来所したが、痛みのため動作が不自由で苦しそうだった。

治療法

治療は四台の治療器を用い、患者の容態を注意深く観察しながら、四灯で40分から90分照射した。照射時間に差があるのは、治療に際し激しい痛みを主訴とする症例ほど速効的に痛みを軽減させることに細心の注意をはらう必要があるからである。すなわちカーボンは赤外線が多く紫外線が少ないため、深部温熱作用が強く皮膚刺激が少ない強赤外線用のBカーボン同士を組み合わせて使用し、照射時間を延ばすことで満足できる鎮痛効果を得るように努めた。また痛みがある程度改善し障害された組織の修復を促したい場合にはBカーボンや標準光線用のDカーボンと強可視線用のAカーボンを組み合わせて使用し、基本照射として全身照射を必ず併用した。

治療成績

【患者1】腰痛は三回の治療で著しく軽くなり、八日間の治療で完全になくなった。

【患者2】当院の治療に併せて自宅でも治療するように指示したので日に二回照射したことになるが、翌日には激痛は著しく和らいでおり、五日間の治療で症状は殆ど消失した。

【患者3】患者の都合で当院の治療は一回で後は自宅で治療を続けたが、三ケ月後に電話で問い合わせ二十日で腰の痛みは殆どなくなったと報告を受けた。

【患者4】病歴から最短で六ケ月は治療する覚悟が要ると話し納得したので治療した。患者は当院の治療と治療器を購入して自宅での治療を熱心に続け、二ケ月目頃より腰から下肢に痛みを訴えるようになったが、前以って麻痺が改善する過程で痛むことを話しておいたので不安なく治療を続けた結果、四ケ月で痛みは軽減して杖を突いて歩けるようになり、六ケ月で知覚も戻り車椅子と離別できた。

【患者5】腰背痛は六ケ月で殆ど改善し、コルセットをはずし杖を突かずに歩けるまで回復した。

考案ならびに結語

光線療法の効果は生理作用に基づくものである。すなわち速効性の鎮痛効果は、光線に血管拡張作用のある物質を生成して血液循環を促進する作用と透過性に優れた深部温熱作用があるため、照射部位に能動性充血を起こして血行を促し、筋緊張を弛緩することによる。したがって激しい痛みを訴えている患部に照射する際には、痛みが和らぐまで十分に時間をかけて治療する必要がある。また光線療法を継続することで、上述の作用に加えてビタミンDを始めさまざまな光化学物質が自己の回復力を高めるように作用するため、治癒に至るまでの経過を短縮すると考えられるのである。

第11回 日本療術学会から
箱根・湯本富士屋ホテル
平成十一年十一月十四、十五日

シンポジウム膝の治療

光線療法による膝痛治療

光線部門代表世話人
宇都宮　光明

はじめに

光線療法の起こりは光源として太陽光線を利用する日光療法（ヘリオテラピー）であるが、前世紀の末に人工光線が実用化されるのと並行して、光線のスペクトル別の作用についての研究が進み、さまざまな光線療法が開発されている。その中で太陽光線に最も近似したフルスペクトル光線を放射し、療術で多用されているカーボンアーク灯による膝治療について報告する。なおカーボンアーク灯療法に全身電光浴（閉鎖空間内で白熱電球の熱作用で熱気浴をする白熱光線療法）の手法を取り入れたルーフ式マルチアーク療法について考察を加える。

カーボンアーク灯の特性

光線が生物に影響を及ぼす因子はスペクトルと照射量である。すなわち光生物反応を起こすのは吸収されたスペクトルのみであり、分子は分子構造によって特定のスペクトルを吸収する。吸収されないスペクトルは反射、透過して光生物反応に関与しない。さて分子は特定のスペクトルの照射量に応じて光エネルギーを吸収して励起分子となる。この励起状態の分子は分子変化の過程を経て、光化学反応によるビタミンDやヒスタミン様物質のような光産物の生成、温熱作用などの光生物反応を起こし励起分子は消失する。この概念は19世紀初頭に確立され〝光線の第一法則〟と呼ばれている。

ところでカーボンをアークさせて燃焼させるカーボンアーク灯は、温度輻射でフルスペクトル光線、換言すれば太陽光線に含まれるスペクトルの総てを連続スペクトルとして放射する。加えて使用するカーボンの芯剤を替えてルミネセンスによる発光現象を利用して、特定のスペクトル域、すなわち紫外部、可視部、赤外部を増強できる。これは光生物反応の強さを左右するスペクトル照射量が、スペクトルの強度と照射時間の積で求められることから、短時間で効果的な反応を起こす上で重要である。

つまりカーボンアーク灯は太陽光線の恵みの総てを効率良く再現する。したがってカーボンアーク灯療法は生物の生理機能を高めることで抗病力（抵抗力）を増し、病気を予防し、病人の治癒力を促進する自然療法と言える。

主な膝の病気

カーボンアーク灯療法を希望する膝の病気で最も多いのは、中高年の肥満気味のO脚の女性に好発する変形性膝関節症である。O脚の原因としては成長期のくる病性のものが多いが、O脚に肥満があると膝関節の内側の荷重や摩擦が大きくなり、加齢に伴い関節軟骨が磨耗、消失し、滑膜炎（関節炎）を起こして滑膜が肥厚し、関節裂隙は狭小化する。そのため骨と骨が直に接するようになり、特に女性の骨は男性と比べて脆いため辺縁部にとげ状に増殖した骨棘を形成する。症状は初期には起立時や階段の昇降時などの運動痛を訴えることが多いが、変形が進行すると自発痛や圧痛を訴え、屈曲伸展障害を起こすようになる。

表1　カーボンアーク灯療法

[1]　シングル・アーク療法（単灯照射）
[2]　デュアル・アーク療法（二灯照射）
[3]　アンルーフ式　マルチ・アーク療法
　（開放空間多灯照射）
[4]　ルーフ式　マルチ・アーク療法
　（閉鎖空間多灯照射）

次に多い慢性関節リウマチは全身の関節を対称性におかす慢性疾患であるが、膝関節は指や手首の関節と共に好発部位である。初発症状は滑膜炎で、再燃と寛解を繰り返し、炎症性の肉芽組織の関節パンヌスが関節軟骨と骨を破壊するため関節は著しく変形する。したがって進行すると日常生活の活動度を高度に損なう機能障害を免れない。原因は不明であるが自己免疫異常の関与が考えられている。

外傷性の膝内障は膝関節とその周辺組織の過度の外力による損傷に対する総称名であり、半月板や靭帯の損傷が主なものである。

カーボンアーク灯療法による膝治療

シンポジウムのテーマは〝光線療法による膝治療〟であるが、カーボンアーク灯による膝のような運動器疾患の治療で最も効果がある治療法は、患部照射、患部に関連する部位への照射、全身照射を併用することである。膝治療の場合、膝痛が激しければ膝に多方向から長時間照射し、膝に関連する腰、足甲、足裏に

照射することに加えて全身照射を併用することで、患部照射だけでは得られない効果がある。

カーボンアーク灯の使い方

ところでカーボンアーク灯の使用法については、さまざまな工夫改良が加えられているが、現に使われている主な使い方を独自に命名して**表1**に示した。

単灯で照射するシングルアーク療法は、自己療法として、あるいは治療院の補助療法として最も普及しているが、必要な照射量を確保するには照射時間が長くなる。二灯照射のデュアルアーク療法は、照射時間を短縮するため、あるいは患部に二方向から照射して効果を高めるために用いられる。開放状態で三台以上で多灯照射するアンルーフ式マルチアーク療法は、照射量を短時間で確保し易いのが利点である。同じく多灯照射を閉鎖空間のルーフ内で行うルーフ式マルチアーク療法は、前述した光線の熱作用を利用する全身電光浴の手法をカーボンアーク灯療法に取り入れた治療法である。

ルーフ式マルチアーク療法の治療時間は30分から45分であり、**図**にこの間のルーフ内の温度と湿度の推移を示したが、特徴は以下の通りである。

(1)ルーフ内は乾熱で湿度が低いため、ルーフ内の温度は熱気浴サウナの半分以下であるが、光線の副交感神経および汗腺刺激作用と相まって気持ち良く大量の発汗を促し、身体の加熱（熱中症）を起こすことはない。

図 ルーフ内の温度・湿度変化

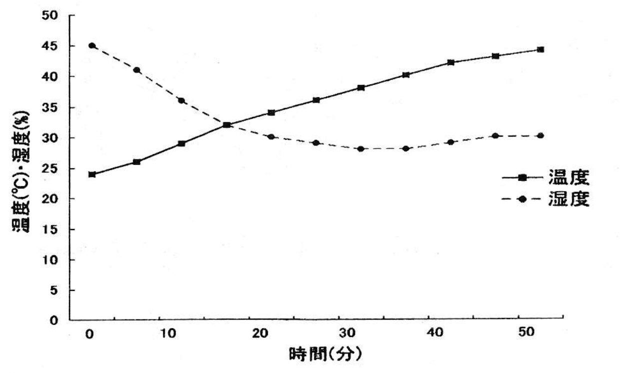
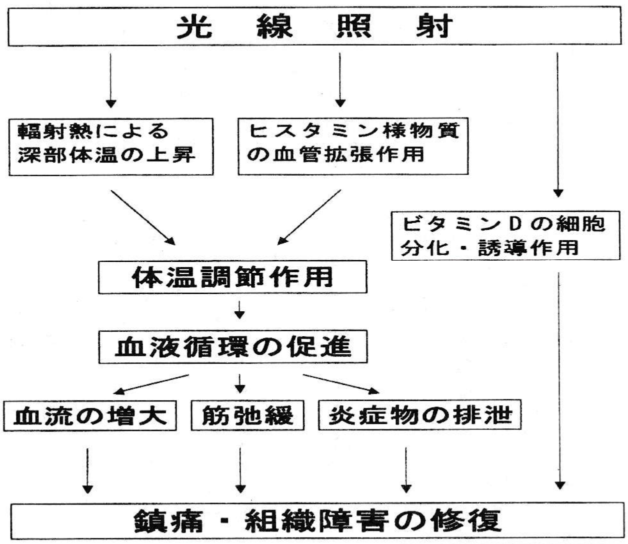


表2　鎮痛と組織障害修復の機序



(2)本療法により体温が局所の体温調節作用が働くレベルを越えて上昇するため、照射部の深部体温は一層上昇し、血管拡張、血流増加を著しく促進する。

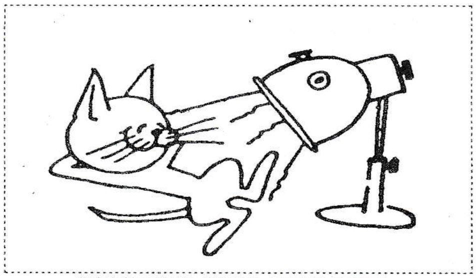
(3)体温の上昇はモルヒネ様物質のエンドルフィンの分泌を促し、鎮痛効果を高め、免疫能を調整する。

鎮痛効果と組織障害修復の機序

表2にカーボンアーク灯療法の鎮痛効果と組織障害修復の機序を示した。炎症性の疼痛のある患部には循環障害があり、速効性の鎮痛効果は主に深達性のある近赤外線（700－1500ミリミクロン）の輻射熱で照射部の深部体温が上昇するのに反応して体温の恒常性（ホメオスターシス）を維持する体温調節作用が作動して血行が促され、循環障害が改善されることによる。加えてヒスタミン様物質の血管拡張作用が協調して働くために血液循環は一層促進し、血行の増大、筋弛緩、炎症物の吸収、排泄を促し、鎮痛効果を確かなものにすると共に治癒機転を促進する。またビタミンDはカルシウム調節ホルモンとして体内カルシウムの恒常性を保つと共に、細胞分化誘導作用で化骨を促し、免疫応答を調整し、組織障害を修復するが、ビタミンD受容体が軟骨細胞にあることから、軟骨の再生に関与する可能性が示唆される。

結語

カーボンアーク灯療法は各自の自然治癒力を高める合理的な治療法である。変形性膝関節症は治療を継続する加算効果で著効を認める例が多い。慢性関節リウマチは再燃と寛解を繰り返す難治な疾患で、痛みを管理し病状の悪化を防ぐことが求められるが、鎮痛効果や免疫応答を調整する作用が予後の改善に有用である。膝内障の場合、速効性に症状を緩和し、その後の経過を改善する効果を認める。なお膝治療では膝を支えている筋肉、殊に大腿四頭筋の筋力を鍛える運動療法（リハビリ）を行って廃用症候群を防ぐことが重要である。



治験例報告

☆慢性疲労症候群

症例　48歳　女性　主婦

症状　風邪をきっかけとして微熱と全身倦怠感が続いたため、近医で経過観察されていたが、徐々に疲労感は強くなり、ベッドから起き上がるのも困難な状態になった。三か月後に入院して全身の精密検査を受けたが、明らかな異常所見はなく、退院後はさらにベッドで横になる時間が長くなった。このため精神科を受診したところ、慢性疲労症候群の可能性が高いが、現時点では研究段階で治療法はないと言われ、ショックを受け落ち込んでいる時に、友人から光線療法の話を聞き、娘さんに身体を支えられながら来所した。

療法経過　治療はAAカーボンを用い、足裏10分、膝部10分、腹部10分、背部10分、腰部10分照射した。翌日から友人に治療器を借り、自宅での治療を開始。十日後、電話にて、症状に明らかな変化はないが、眠りは深くなったとの報告があり、さらに二回目の電話連絡で、若干の全身倦怠感はあるものの、頭痛や筋肉痛の頻度は減少し、調子の良い日には数時間でもベッドから離れることができるようになったと報告を受けた。治療開始一か月後には、本人から、疲労感や倦怠感は残っており、普通の日常生活に戻れたわけではないが、以前、寝たきりの生活を余儀なくされた憂うつな状態からは離脱でき、希望をもつことができるようになったと喜びの報告を受けている。

神戸市　ウエノ光線療研
上野　健太郎氏報告
TEL〇七八－三三二－一三五八

☆肝硬変症

症例　74歳　女性　マラソン愛好家

症状　昭和56年12月に初めて病院で慢性肝炎と診断され、妹と来所し、光線療法を開始した。以後、光線療法の愛用者となり、自宅での治療と当院での治療を行い良好に経過していた。平成10年7月頃から、倦怠感に加え、全身の皮膚に黒色調の色素沈着と所々に痒みをともなう湿疹を認めたため、病院を受診し肝硬変症と診断された。

療法経過　平成10年7月21日から11月6日まで、自宅での治療に加え、当院でも治療を行った。治療にはABまたはBDカーボンを、適宜症状に応じて使用し、照射方法は二灯照射または四灯照射で行った。最初は、側臥位にて顔面、腰部、膝部および膝裏に10分間照射。次に、後頭部、右上腹部、膝裏および足裏に20分間照射。さらに下腹部、背部および足裏に10分照射した。次に仰臥位とし、一号集光器を用いて、左側顔面、右側頸部（甲状腺右葉付近）、左側腹部および右膝側面に10分間照射し、さらに右側顔面、左側頸部（甲状腺左葉付近）、右側腹部および左膝側面に10分間の同時照射を行った。治療開始後、徐々に全身の皮膚の色素沈着は薄らぎ、湿疹も少しずつ改善したため自宅治療のみとした。本年9月、久しぶりに来所された際には、いたって元気で全身状態も良好であり、今後も光線療法を継続されるとのことであった。

川崎市　東京光線治療院
海渡　一二三氏報告
TEL〇四四－七二二－五〇六七

☆メニエール病

症例　60歳　男性

症状　以前、腰痛のため治療器を購入し、光線療法を体験していた患者。突然、何の前駆症状もなく、めまい、耳鳴および嘔気を自覚。めまいは、閉眼にても、ぐるぐると回る回転性のもので、身体がふらつきまっすぐに歩くことができなかった。病院では、メニエール病と診断され、入院治療をすすめられたが、是非光線療法で治したいとの希望をもち来所した。

療法経過　治療はAAカーボンを使用し、二号集光器を用いて、両側の耳を正面からと、耳後部および後頭部を各30分ずつ照射。基本照射として、足裏、足首、膝部、腰部、背部をAAカーボンで各20分ずつ照射し、腹部は、ABカーボンで20分照射することを指示した。自覚症状は徐々に改善し、約一か月で完治したが、しばらくは光線治療を継続するように説明した。その後、さらに一か月経過観察したところでは、再発することもなく元気に仕事をしている。

福岡県春日市　育美健康光線療研
山崎　いく子氏報告
TEL〇九二＜五八一－二〇三九
　　　　　五七二－一五七三

サナモアカーボンの類似品にご注意下さい

サナモアA、B、C、Dカーボンは、その使用法を書いた著書「光線療法学」とともに愛用者各位の御信頼を頂き、全国津々浦々まで高い評価を受けておりますことは、皆様方よくご存知の通りであります。
ところが他社製カーボンに「光線療法学」をセットしたり、サナモアABCDと効果が同じという根も葉もないうたい文句で互換表を添付して販売している業者がいます。もとより、このような道理にもとる行為をする者が何時の世にもいますが、当研究所としては他社製カーボンを使用した場合の効果について一切の責任はもてませんので呉々もご注意下さい。
（サナモアカーボンには、製造元イビデン株式会社の商標－B－のマークが必ずついています。）

東京光線療法研究所

文明の常識非常識
―医療の変遷から学ぶ―

サナモア光線協会
医学博士　宇都宮　正範

はじめに

ついに西暦二〇〇〇年の扉は開かれましたが、今日、医学の分野は日進月歩で、二〇〇三年には人類の英知を結集したヒトゲノム（遺伝子）計画が完了する予定です。このヒトの遺伝子地図が完成すれば、さらに病気の研究がすすみ、診断や治療に遺伝子を応用する新たな時代が到来することになるでしょう。

しかし、ここ数十年の出来事で、人類の長い歴史からするとほんの一瞬に過ぎません。そして、その歴史を紐解くと、そこには人類が様々な病気と戦い続けた歴史が横たわっているのです。

特に、微生物による感染症は、人から人に伝染する原因不明の疫病として恐れられました。なかでも結核は人類と古くから関係があり、化石やミイラにその痕跡を見ることができます。

ハイデルベルクで発見された新石器時代の人類の化石には、胸椎カリエスの変化がみられ、紀元前三七〇〇年頃のものとみられるエジプトのナガダの墓から発掘された約二千例の人骨のうち三十一例に骨結核が認められます。抗結核抗生剤が生まれたのは今次大戦後ですから、人類にとって結核は天敵のような存在だったのです。その間、人類も種の存続のため防御力を強化してきました。免疫系には、主にリンパ球が関与する細胞性免疫と抗体が関与する体液性免疫がありますが、このような防御システムを獲得するまでには、極めて長い年月を要したと思われます。そして、抗生剤を開発した当初は、だれもがこれで結核菌を含め細菌との争いに終止符を打てるものと考えましたが、抗生剤が効かない細菌（薬剤耐性菌）の出現で、人類はまたもや手痛いしっぺ返しを食いました。戦後、減少の一途をたどっていた結核の再燃も、その一つの現れといえるでしょう。

また近年、アトピー性皮膚炎や喘息など免疫系の異常による病気の増加が著しく、難治化する傾向にあり、高血圧などの慢性疾患も確実に増えています。これから先、どれだけ文明が発達したとしても、疾病構造が変化するだけで、人類と病気との戦いが永遠に続くことだけは明らかです。そこで、医療の歴史を振り返り、今後のヒントにしてみてはどうかと思います。

古代の医療

ソクラテスやプラトンによりギリシアに自然哲学が誕生した頃、医学の祖ヒポクラテス（460－375ＢＣ）は、それまで行われていた呪術的な祈祷医療から脱却し、病人を観察し、病気を論証する新しい医療を行いました。彼の医療の優れた点は、まず病人と病状を詳しく観察し、その原因を合理的に説明することを試み、治療には食事、気候、風土を重視し、自然治療を促すようはかったことにあります。しかし、彼は解剖や実験を行わなかったため、それ以上発展することはありませんでした。すでにこの時代アレキサンドリアでは、人体解剖が公認されていたため、ヘーロピロスは脳、脊髄、神経の関連を明らかにし、エラシストラトスは感覚神経、運動神経を区別し、心臓と肝臓を正確に記録しています。また解剖学のほか、外科学、毒薬学の研究も行われており、ポムペイから出土した外科用器具には、子宮鏡、ゾンデ、ピンセットなど現在でも使用できそうな器具が多数見られます。

文化の中心がギリシアからローマに移ると、多くの学者もローマに移り、ギリシア医学の最後はローマで花開きます。そして、この時代に最も貢献したのが、ガレノス（129－200ＡＤ）です。彼は、自然は無意味なものは作らないというアリストテレスの原則に則って、人体各部の形態と機能を説明しました。彼の血液の流れに関する学説では、栄養分は腸から肝に運ばれ、肝において自然のプニューマ（精気）を受け血液になり、血液の一部は末梢へ、残りは心臓の右心室に行き小部分は肺に入り、残りは心室中隔にある目に見えない小孔を通過して左心室に入り、そこで肺からの生命のプニューマを受けて、動脈を通じ再び末梢に運ばれると説明しています。

しかし、このような画期的な概念を見出した彼の実験医学的研究は、さらなる発展を遂げることもなくやがて消滅し、その学説のみがルネッサンスを迎えるまで千年以上、人体解剖学の常識として伝えられることになるのです。

中世の医療

キリスト教が西暦三一三年に公認されると、キリスト教徒により各地の神殿は破壊され、それまでに培われてきた実験医学は完全に封印され、修道僧の行う医療が全てになりました。いわゆる、教会医学の誕生です。そこでは、優れたギリシアの医学書も読まれることはなく、修道院の図書館に保管されてしまい、修道僧が最高の医師で、祈りが最良の薬と信じさせられていました。これまでに発展してきた医学は、新しい経験が追加されることもなく、伝承される内容も乏しく、また宗教上の規制から外科的治療は行われず、解剖学、生理学は忘れさられました。そして、この間にアラビア医学がギリシア医学を受け継ぎ、東方諸国の知識を吸収して独自の発展を遂げるのですが、アラビア医学の果たした役割は大きく、のちに近代医学の担い手となる西欧諸国に受け継がれることになります。

近代の医療

東ローマ帝国が一四五三年に崩壊し中世は終焉の時を迎えますが、近代医学の誕生は遅れること約百年、一五四三年にヴェサリウスが「人体の構造」を著した時とされます。彼は、それまで信じられていたガレノスの解剖学に多くの誤りがあることに気が付き異論を唱えますが、ガレノスを信じその学説にしがみつく権威者たちは、ヴェサリウスの学説を容認できず、彼を狂人扱いしました。いつの世にもあることですが、先駆者たちの通過しなければならない道で、この頃、地動説を唱えて幽閉の

〈八ページに続く〉

＜七ページから続く＞

身となるガリレオ・ガリレイもその一人でした。

そして、近代は抑圧されていた中世に対する不満が爆発するかのように、様々な分野で学問が発達します。優れたレンズの発明により顕微鏡が作られ、それまで人類が目にすることができなかった世界が目の当りになり、やがて、細菌の発見、抗生剤の誕生につながります。一九二八年、フレミングは偶然ある種のかび（ペニシリウム・ノタトウム）に殺菌作用があることを観察しますが、その殺菌作用を有する物質ペニシリンは、一九四〇年にチェーンによりはじめて精製されます。のちに、二人はその功績でノーベル医学生理学賞を受賞しますが、化学療法はこの時始まり、わずかの間に様々な種類の抗生剤が合成されることになるのです。そして今、われわれが恩恵にあずかっているほとんどの医学が、今世紀のものと言っても過言ではないでしょう。

求められる医療

医療の変遷について簡単に触れましたが、来るべき西暦二〇〇〇年には、さらに解決困難な課題が山積みされています。なかでも、人口の高齢化は重要な課題の一つです。六五歳以上の人口を高齢者とすると、本邦では現在全人口の約一五％をしめており、二〇一〇年には二〇％に、そして二〇二〇年になると二五％になると予測されます。こうなると、それにともない疾病構造も変わり、慢性疾患の増加や介護面の変化も生じるでしょう。

また、近年の医学的研究はとどまるところを知らず、私たちは、神の領域にまで足を踏み入れようとしています。生殖医療、クローン技術、遺伝子操作などの新しい高度先端医療は、生命の根幹、倫理にかかわることで、社会とともにあるべきものです。人類の未来のためには必要であると言って、研究者の言うとおりに研究を押し進めるべきものではありません。歴史が示すように、時代により病気の概念や治療法はいとも簡単に変わってしまい、文明ほど曖昧なものはなく、文明がもたらす常識が、時とともに陳腐で非常識なものになり、最後は忘れ去られてしまうことが往々にしてあるからです。

二十世紀、医学はわずかの間にとてつもなく進歩しました。中世の医学が、約千年進歩しなかったことを考えると、この進歩の速さは驚異的です。そこで、これからは時に立ち止まり、今自分たちが行っている医学には普遍性があるのか、正当性があるのかを考える必要があるのではないかと思います。このことは、医学だけでなく、化学や工業などの広い分野にわたり言える事ですが、進歩する歩調をゆるめる余裕がほしいのです。将来、私たちの子孫に、二十一世紀は、人類を破滅に導いた罪の時代であったと言われないために。

◆募　集◆

サナモア光線治療師
サナモアカウンセラー

次回「養成講座」
平成12年2月開講予定

当協会の趣意に賛同され、サナモア光線療法の普及にご協力頂ける方、治療院の開業を検討なさりたい方は、サナモア光線協会までお問い合わせください

サナモア
Sanamore

サナモア光線協会 趣意書

サナモア光線協会は、太陽光線こそ健康を増進する自然の恵みの源泉であり、生命力を高めて病気の予防、治療に効果があるとの観点に立ち、太陽光線に近似したフルスペクトル光線を放射するサナモア光線療法の啓蒙、普及活動に努めることで、国民の健康、福祉に貢献します。

サナモア光線協会は、サナモア光線療法に対する認知と評価を高めるため、

一、季刊紙、「健康と光線」の発行。
二、サナモアカウンセラーの募集と育成。
三、サナモア光線治療師の募集と育成。

の事業を行います。

サナモア光線協会
医学博士　宇都宮　光明

「健康と光線」の購読者を募集します。
また事業の詳細はお問い合わせ下さい。
〒153-0063 東京都目黒区目黒4－6－18
サナモア光線協会 TEL（03）三七九三－五三八二
三七一二－五三三三

（本紙の無断転用を禁止します。）